



Project OSC



DATA

- 主な連携先・メンバー
武庫川女子大学／大阪ターミナルビル株式会社／関西大学建築環境デザイン研究室／建築計画第1研究室
- 活動地域
大阪府大阪市 (JR大阪駅 大阪ステーションシティ「時空の広場」)
- 活動期間
2012年～継続中
- 活動資金
大阪ターミナルビル株式会社事業費

活動の目的

大阪ステーションシティ (OSC) の広場の魅力を再発見し、「新しいまちの風景」を創出する

連携にいたる経緯

2011年に開業した大阪ステーションシティは、駅とまちが一つになるように計画されたが、開業当初は人のスケールから逸脱した空間であり、広場の在り方が模索されていた。そこで「OSCが本当にまちになっているのか」をテーマに、継続的にOSCについて考えていくことになる。

活動内容

本活動は、今年度で8年目となる。1年目はモニター調査として、まちらしさの観点から調査・提案を行った。2年目以降は、時空の広場での「新しいまちの風景」の創出に向けた広場空間活用の提案・実施活動を行っている。

実施提案では、広場に仮設的な空間操作を行うことにより、広場の魅力を引き出し、訪れる人々が広場に愛着を持てる仕掛けを創り出している。あわせて、ワークショップなど、利用者を巻き込んだ広場活用を行い、多世代が広場を介し交流する風景を創り出している。2019年度の提案では、時空の広場の特徴の一つである大屋根の下に、布を用いて小さい屋根のような空間を作ることによって、風や光といった目に見えない自然を可視化し、時空の広場にあふれる魅力を利用者の方々に感じてもらうことができた。

このプロジェクトは、様々な立場や職種の方々と協働することで実現している。学生では不十分な技術的・制度的部分を補うために専門家と協働し、分野横断的に関わり合うことで、提案も視野の広がりを見せている。



活動の成果

- 1 広場に存在する制限の見直し、枠組みの拡大
- 2 管理会社との課題の抽出・提案
- 3 他大学との連携

今後の課題・目標

- 1 日常時の広場空間活用の在り方の模索
- 2 各主体との連携強化
- 3 常設にまで踏み込んだ提案を行うこと

教員紹介



■ 環境都市工学部 教授

江川直樹
Naoki Egawa

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年株式会社現代計画研究所入社。82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

協働担当者紹介



■ 建築環境デザイン研究室
OB

中井 紘之
Hiroyuki Nakai

1994年兵庫県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。(建築環境デザイン研究室) 在学時はJR大阪駅の時空の広場を拠点とした「Project OSC」に携わる。現在は設計事務所に勤める。